

町の農業振興を問う

町長 新規就農者支援に力を入れる



田中 孝 議員

米政策見直しへの対応は

問

生産者のみならず地域の方々も不安を募らせている。今後の取り組みについて問う。

町長

今後の稲作のあり方を見据え、関係機関、地域とも連携をはかりながら取り組んでいく。

稲作農家の経営は厳しい状況にあるが

問

米価下落による収入減を補う政策を考えているか。

農林主幹

26年産において「ナラシ移行のための円滑化対策交付金」及び、緊急の利子補給、生産支援緊急対策事業等で補ってんした。今後、再生協議会で飼料用米、ホールクロップサイレージ稲、つや姫の作付等を検討していく。

農地中間管理事業は

問

担い手支援のため、農用地の集約を進めている現状を問う。

町長

26年度実績は539筆、約117haである。今後とも国からの交付金として様々なメリット措置もある中で、積極的に活用を進めていく。

生産基盤の確立を

問

水田の基盤整備が行われているが、未整備地域もある中で今後の取り組みを問う。

町長

地域での「人・農地プラン」の話し合いの中で、農地を守っていく場合に必要となれば、町として支援するよう考えている。

新規就農者の支援は

問

就農者、または新たに農業を行い定住される担い手の方々に対する支援、育成の取り組みを問う。

農林主幹

国の地方創生事業を活用し、近く新規就農者受入協議会を発足させ先進地視察や農家の育成等を行い、体制を整備していきたい。

農協改革への所見を

問

国は農協改革を行い、農家所得を増すとしているが、農家は不安を持っている。町長の所見を問う。

町長

JAの果たされた役割は高く評価する。8月29日に参議院で決定されており、情報を早く集め本町の農業政策に、役立てたい。



若者にはかなわない